

学校概要

創立 43 周年	学校長 加藤 裕之	副校長 岩松 玲子	学期 3 学期制	児童・生徒数 310 人
学級数 一般級: 8 個別支援級: 3			主な関係校: 中沢小学校	

学校教育目標

自主・創造・共生
 ○自ら学び、自ら考え、つくりだす力を育てます【知】
 ○お互いに認め合いながら、共に伸びていこうとする態度を育てます【徳】
 ○たくましい心と健やかな体を育てます【体】
 ○社会とのかかわりを大切に、共に生きる態度を育てます【公】
 ○さまざまな変化に柔軟に対応できる力を育てます【開】

学校の特徴

- 学区は閑静な住宅街であり、地域、家庭ともにとっても落ち着いた環境にある。
- 1小1中であり、また小学校との距離も短く、小中連携を図りやすい環境にある。
- 学習に意欲を持ってまじめに取り組む生徒が多い。
- 学習内容の習得に課題のある生徒も一定割合いる。
- 生徒の規範意識は高く、生徒指導上の問題は少ない。
- 自己肯定感を十分に持っていない生徒や失敗を恐れて挑戦することに躊躇する生徒が少なくない。

学校経営中期取組目標

○学校教育目標の実現に向けて、以下のような学校の姿を目標にして取組を進めていきます。
 ・生徒が事件・事故に巻き込まれたり、怪我をしたりすることなく、またいじめなどが無い安全で安心して過ごせる環境を確保します。
 ・教職員が生徒を第一に考えて寄り添い、生徒の成長のために一体となって教育に当たる学校を構築します。
 ・すべての生徒が主役となって活躍し、自ら進んで困難な課題に挑戦し解決することで達成感を味わい、成長する機会を確保します。
 ・1小1中という恵まれた環境を活かして、小中連携を進め、一貫して切れ目のない教育活動を行います。
 ・地域との連携を進め、生徒の成長につながるとともに、地域の課題解決にも貢献できる活動を行います。

小中一貫教育の取組

旭中学校	ブロック	旭中学校・中沢小学校
9年間で育てる子ども像	○自分を見つめ、自身の将来(生き方)を考えることができる子ども ○一人の人間としての自立を目指す子ども	
自校の具体的取組	・小学校併設型中学校として、「併設型小中学校一貫教育推進委員会」を中心に、児童生徒の実態、地域・保護者のニーズを踏まえ、小中一貫カリキュラムづくりを進める。 ・平成29年度に小中で共有した「児童生徒指導のスタンダード」、「共通授業コンセプト」を検証し定着を図る。 ・小中合同の学校運営協議会を通じて、保護者、地域住民との連携・協働の強化を図る。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎的な資質や能力を習得させるとともに、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習を充実させ、授業改善に努める。	①達成感を感じさせる授業や特別支援教育を視野に入れたユニバーサルデザインの授業の実践・研究を進める。②小中合同の授業研究会でお互いの授業を見合い、検討することを通して教員の授業力向上をめざす。③授業の中で積極的なグループ活動を取り入れるなど、生徒が主体的・協働的に学ぶ機会を意図的につくる。
豊かな心	命の大切さや自分を認め、他者への思いやりを感じる学習の展開を教育活動全般で行う。	①校内研修を通じて道徳科の授業の充実を図る。②学校教育全体で道徳教育を行い、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動においても、そのねらいと道徳科の内容項目との関連を図る。③学校行事等のさまざまな体験で高められた自己有用感や他者理解の心情をさらに深めることに重点を置いて道徳科の授業を行う。
健やかな体	自らの心や体の健康・安全に関心を持ち、主体的に行動できる資質や能力を育てる。また、生徒自身が目標を定め、実践力の育成と体力の向上を図る。	①生徒の実態を外部講師と共有し、薬物乱用防止教育、性・いのちの教育や食育を充実させる。②学校保健委員会の活動を中心に、一人ひとりが学期ごとに自分の健康づくりを振り返る機会を通して、健康に対する行動意欲の向上を図る。③「体力づくり」を継続して行い、体力テストを年2回実施することで、体力の向上を実感できるように取り組む。
地域連携	保護者・地域との連携を深め、生徒とともに育てる体制を構築する。また、地域行事への自発的な参加を生徒に促し、社会に貢献する意識を高める。	①より良い地域社会を作るという目標を保護者・地域と共有し、小学校と共に保護者・地域と協働した教育活動の実践を行う。②地域行事を生徒に案内し、生徒の自発的な参加を促すとともに、職員も参加しながら地域との連携を深める。③学校便り、学年便り等を通して、生徒の活動の様子を効果的に地域に知らせる。
キャリア教育	自らをみつめ、将来、社会の一員となる自分像を描くことができる生徒の育成に努める。	①キャリア教育を学校全体の教育活動として系統的に計画し、教科・領域・学校行事と総合的な学習の時間の関連が明確にわかるように整理する。②1年生の職業インタビュー、2年生の職場体験学習を通して自らの将来を考える機会をつくり、3年生で主体的に進路を選択できるように取り組む。
特別支援教育	個々の特性に応じた指導ができるよう情報交換を定期的に行う。関係機関との連携を密に行いながら個々の生徒を支援する。	①特別支援教室の運営・活用方法を全職員で共通理解し、学校カウンセラー、特別支援学校等と連携しながら、支援体制の充実を図る。②教職員一人ひとりが生徒を理解し、生徒の状況に応じた段階的な支援ができるようにする。③ユニバーサルデザインの指導方法の研究・実践を進め、一人ひとりの学習の困難さに応じた指導を工夫する。
特別活動	様々な集団活動を通して、自他ともに大切にすることを養いながら集団への所属感や連帯感を深め、よりよい学校生活を築こうとする意識を育成する。	①特別活動と「特別の教科道徳」や「総合的な学習の時間」との関連を図ることにより時間を生み出し、学期毎の学年レク・学年集会などの集団活動に充て、自他ともに大切にすることを養う。②各行事の反省や目安箱等から生徒の声を拾い、それを生かして各行事の立案・運営を行うことにより、生徒の参加意識を高め、集団への所属感や連帯感を深める。
いじめへの対応	生徒一人ひとりに、居場所と役割があり、受け入れられ、自己有用感をもって学校生活が送れるようにする。	①だれもが安心して参加でき、自尊感情を高める授業を研究、実践していく。②特別活動や行事を工夫し、親和的な学級集団、学年集団、生徒集団づくりを進めることで、生徒の自己有用感や自尊感情を高める。③生徒一人ひとりを大切にすることを教職員の意識をさらに高め、生徒一人ひとりに居場所と役割をつくるように指導を行う。
人材育成・組織運営	27年度に改編された組織の活性化を図るため、各部署が自主的に企画・立案し、係間の連携とともに、運営改善に努めることにより人材育成も図る。	①メンターチームによる経験の浅い教職員の学習指導、生徒指導等の実践力の向上と、主幹・主任会によるミドルリーダーの育成を柱に人材育成を行う。②個々の教職員が校内外の研修で習得した知識を教職員全体で共有する機会をつくる。③教育課題解決のための取組について、学校評価等で効果を検証し、次期中期学校経営方針の策定につなげる。